

旅行取扱状況の概観（平成18年4月分）

海外旅行の取扱額をみると、団体旅行では一般団体、学生団体が共に取り扱い不振で大きく前年を下回り、団体計は2ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。企画旅行はホリデ이의伸びが鈍化し前年実績に届かず、その他企画商品も不調のため前年実績を下回った。一方、個人旅行の取扱いは個人需要を取り込んで堅調に推移し、4ヶ月ぶりの前年比プラス。海外旅行合計は、団体旅行の取り扱い不振、企画旅行の取り扱い低調により、前年比91.2%と2ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。

国内旅行の取扱額をみると、団体旅行では一般団体は取り扱い不振、学生団体も取り扱いが伸び悩み、団体計では前年実績を大きく下回った。企画旅行は、メイトの取り扱い低調により前年実績に達しなかった。個人旅行の取扱いは、航空券、宿泊券の取扱いは好調であったが取扱絶対額の大きいJR券の取扱いが回復せず、個人旅行計では前年実績に達しなかった。このため、国内旅行合計は前年比92.6%と前月に続いて前年実績を下回った。

外人旅行は今月も取り扱い不振で、前年比83.3%と前月に続いての前年比マイナス。

4月の総取扱額は、国内、海外の団体旅行の不振、企画旅行の低調により、前年比92.0%と前月に続き前年実績を下回る結果に終わった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体はイベント・コンベンションの取り扱いが低調で、大幅な前年実績割れとなった。学生団体も取り扱いが減少し大きく前年実績を下回った。方面別の取り扱いでは、香港、シンガポール、マレーシア、その他東南アジア、ハワイ、アメリカ本土、オセアニアが好調であった。

(2) 企画旅行

ホリデイは、ゴールデンウィークの日並びから5月へのシフトが目立ち、取扱額前年比で97.3%と2ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。方面別取り扱いでは、好調の続く台湾、およびシンガポール、タイ（前年地震の反動）、ハワイの増加が目立った。中国は依然として低迷している。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、イベント・コンベンション関係の取り扱いが前年愛知万博の反動もあって低調で、このため前年実績を大きく下回り2ヶ月ぶりの前年比マイナス。学生団体は、修学旅行、研修関係、校外学習の取り扱いがいずれも低調のため前年実績に届かなかった。

(2) 企画旅行

メイトは、取扱人数、取扱額が共に前年実績を下回り、前年比95.5%と低調な取り扱いが続いている。

商品別の状況をみると、九州方面と関西地区商品の取り扱い好調であったが、沖縄方面商品、東京地区商品および宿泊型商品は取り扱い低調であった。